

## 鳥海山から出羽三山(羽黒山・月山・湯殿山)へ



鳥海山遠望



頂上直下の御室小屋(外輪山より)

福澤 卓三

日 時 : 2018年7月12日(夜)～7月16日

メンバー : 福澤 卓三

コースタイム :

7月12日(木) 新宿バスタ(21:55)(夜行バス]

7月13日(金) (6:10)酒田(6:34)－(7:30)鉾立登山口－(10:00)山荘で停滞

7月14日(土) 鉾立て山荘(5:00)－御浜小屋(7:00)－七五三掛(8:10)－伏拝岳  
(9:50)－新山(鳥海山)(11:30)－御室小屋(12:00)－御浜小屋  
(15:00)－鉾立山荘(17:00)

7月15(日) 鉾立て山荘(7:45)－遊佐(8:31)－酒田(9:04)－鶴岡(9:23)－  
休暇村羽黒(10:30) 1日羽黒山 散策

7月16(月) 休暇村羽黒(7:10)－(8:00)月山8合目(8:20)－仏生小屋(10:30)  
－月山(12:20)－湯殿山神社(15:30)－仙人沢バス停(17:10)－鶴岡  
(特急18:20)－新潟(新幹線20:20)－(22:19)大宮－(22:50)－板橋

7月12日(木)

若い頃から、歳をとったら一人でのんびりと山に行きたいと思っていた。

仕事も終わり、時間の余裕もでき、山に行くのに何も支障もなく、そろそろ実行に移そうと思った。一番行きたいところは出羽三山である。BS-TBSの日本の名峰というDVDをみて、計画をねった。鳥海山もついでに登れそうで、最初に登ると後が楽である。酒田まで深夜バスを利用し、もっともポピュラーな鉾立の象潟ルートから登ることにして深夜バスを利用した。バスは3列シートで楽に座れた。安いし時間の節約もでき自分一人なので好きな時間に行かれる。

7月13日(金)

6時20分に酒田到着。奥羽本線で遊佐駅で降り予約したタクシーにのった。乗合バスには三連休なのに私一人である。庄内平野のたんぼの稲がきれいである。山中の道路は霧がでて

運転手はなれているが15メートル先は見えない。50分近く乗っているが料金は¥2800である。運転手は気にしなくてもよいと言ってくれた。(帰路も同じ運転手であった。)

鉾立の登山口は立派なビジターセンターとレストランと鉾立山荘があるがガスで何も見えない。

ビジターセンターとレストランはまだ空いてない。鉾立山荘で雨具を着させてもらい、雨の中をスタート。やはり深夜バスの疲れや準備段階の寝不足で体が重い。何より深田久弥の“名山と呼ばれるにはいろいろの見地があるが、山容秀麗という資格では、鳥海山は他に落ちない。”という山容秀麗がみえない。羽黒山の花祭り見物をあきらめて、一日ようすをみることにする。

鉾立山荘に戻り帰路のタクシー・頂上の小屋・休暇村に予約を1日伸ばしてもらい爆睡した。

7月14日(土)

不要な荷物をビジターセンターに預かってもらい、5時に出発。コンクリートと石畳が、かなり上まで整備されている登山道を登り、しばらく行き賽の河原の雪渓を横切り夏道に入る。雪渓をつめても行かれそうであるがルートを間違えそうである。夏道を詰め、斜面を登ると御浜小屋にでる。小屋の上の台地から鳥海湖が眼下に見える。なだらかな道を進み、いったん下り



御浜小屋



鳥海湖

登り直すと、外輪山に行くコースと千蛇谷に降りるコースの分岐にでる。風があり涼しくて景色がよい外輪山コースを進む。千蛇谷コースはかなり下るので登りがきつそうだ。本日天気はよいが遠くまでは見えない。日本海が見えればかなりの絶景であると思う。



稜線から本峰を望む



稜線から来た道を望む



外輪山の文殊岳から本峰



外輪山から千蛇谷



外輪山の伏拝岳



頂上



外輪山コースも思ったほどきついコースではない。低木の中を進み文珠岳・伏拝岳を過ぎ小屋の上部にきたら、いったん下り、小屋の裏手から頂上をめざす。体の半分くらいの石が重なり合っていて、グラグラする石もある。印を見てコースを外れないように慎重に登っていくと頂上である。狭いので写真を撮った者から下る状態である。狭いので長居もしたくない。

最高高度の新山（鳥海山の看板を持つ福澤）



頂上にある鳥海山大物忌神社



御室小屋

帰路は千蛇谷を目指して下り、七五三掛を登り直して来た道を鉾立てまで下山した。

鉾立山荘の裏から日本海が見え、きれいに沈む夕日を楽しんだ。



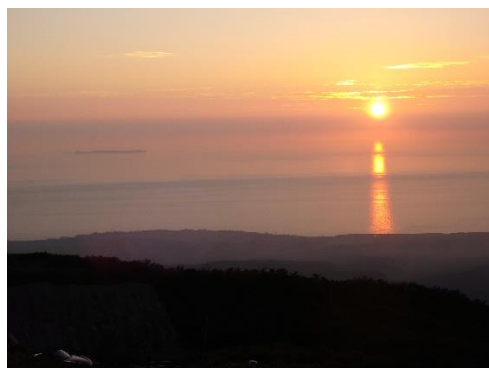
一緒に下った福島の大槻さん



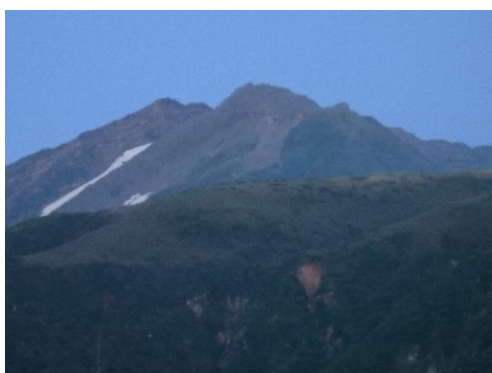
白糸の滝



鉾立ビジターセンターの夕日



鉾立てビジターセンターの夕日



鉾立山荘裏から



奥羽本線車窓から



7月15日(日)

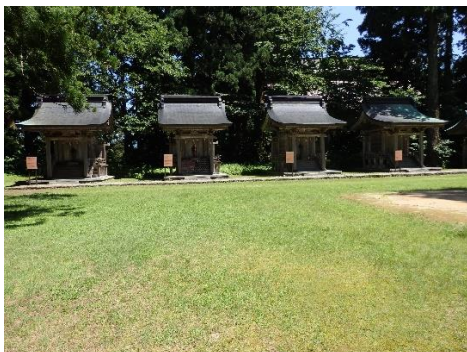
8時に予約したタクシーが7時45分に来た、少しでも早く行けば羽黒山の花祭りが見られるので、来たときと同じ運転手をお願いをし、急いでもらい8時31分に遊佐。酒田ー鶴岡と乗り継ぎ、バスで10時30分に本日の宿である羽黒山休暇村についた。荷物を預かってもらい見物に出かけた。羽黒山の山頂に先に行ったが、バスが渋滞してしまい、縁起物の花を取り合う行事などみることができなかった。それでも杉の巨木立ち並ぶ階段を降りて、本日は五重塔のなかにはいることができた。テレビで見た心柱の話も聞くことができ、実際に見ることもできた。1本ではなく7～8本をつないでいること、根本はを切っており、ぶら下がりながら重みで塔を支えていることなど説明してくれた。お祓いも受けた。休暇村のホテルは当たり前のことであるが山荘とは快適さがちがう。又おいしいご飯と多彩なメニューの食事を堪能して、風呂も最高。明日の朝食と昼食の弁当をお願いしてよく寝た。



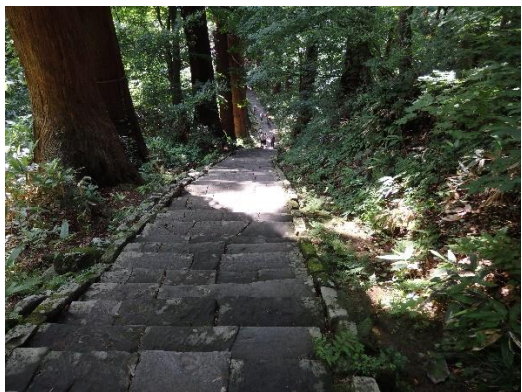
出羽三山神社（三神合祭殿）



境内の鐘楼







羽黒山の階段



羽黒随神門



羽黒山の五重塔



7月16日(月)

休暇村前のバス停から、月山8合目行きのバスに7時10分にのり、8時に到着。

トイレを済ませて、登山届けをだして出発。登り初めてすぐに二手に分かれる。高山植物の保護をされていて、どちらでも行かれる。なだらかな登山道を上っていくと雪渓がでてくる。



一の岳、二の岳を越え、2ピッチで仏生池小屋についた。この小屋で休暇村のホテルで作ってくれた朝飯の弁当を食べた。心のこもった弁当で感激。小雨で少し濡れているので雨具を着て出発。すべてなだらかでよい登山道である。所々に高山植物が咲いている。木道と木道の間にウスユキソウが咲いていた。白装束の登山者も大勢いた。雨は上がった。



仏生小屋



白装束の登山者



ウスユキソウ(エーデルワイス)



一昨日登った鳥海山



頂上につつく雪溪



月山頂上小屋



月山神社本宮の門



月山神社本宮

大峰を越えて雪溪のすみを登っていくと頂上に着いた。一番高いところに、月山神社本宮があり、お祓いを受けてお参りをした。



これから湯殿山をめざして下山するのだが、湯殿山は本来の山でなくて、出羽三山の奥の院、湯殿山神社を湯殿山とよんでいるらしい。本来の湯殿山は誰も登らない。このあたりが神秘的である。仙人沢バス停15時発鶴岡行きを目指して急いだが、とちゅうであきらめて17時20分発の最終便のシャトルバスに乗ることにしてのんびり下山する。



牛首の標識



途中から下山路は沢のそば



神聖な湯殿山（誰も登らない）

多くの登山者はリフトに乗って下山するが、金姥から右にトラバス気味に下っていく。湯殿山（本来の山）がみえてくる。装束場から急坂となり、長い鉄ばしごや、トラロープにつかまりながら、沢の脇を下ると道路がみえてくる。そして湯殿山神社本殿に到着。足を洗わないと本殿には行かれない。祈祷だけしてもらおう。これで出羽三山すべてで祈祷をしてもらった。

ここから道路まで上がって、シャトルバスで駐車場へ行き休憩し、鶴岡までバス。そこから特急で新潟へ行き、新幹線で大宮まで。埼京線で板橋まで。その日のうちに我が家に到着。若い頃からの念願がかなったわけである。楽しい楽しい4日間であった。



湯殿山神社の大鳥居